



町選挙管理委員会の栗原賞委員長から当選証書を受け取る橋本光規さん。

### 邑楽町長選挙開票結果

◆得票順、敬称略

橋本光規 5,932票

金子正一 5,520票

(無効票93票)

12月3日、任期満了に伴う邑楽町長選挙の投票が行われました。同日、役場大会議室で即日開票され、橋本光規さんの初当選が決まりました。

# 前へ

## 進めるまちづくり

# 橋本町政スタート



### 【Close Up】橋本新町長 初登庁

12月19日。先の町長選挙において初当選を果たした橋本光規町長が初登庁しました。早朝からたくさんの町民や職員の拍手に出迎えられ、新しい町長として役場の入口に立った橋本町長は「誇り高い邑楽町を目指して頑張りたい」と、これからのまちづくりに向けての決意を語りました。

#### ―新年のごあいさつ―

新年あけましておめでとうございます。本年もすがすがしい年明けを迎え、皆さまお喜び申し上げます。昨年令和5年は、町にとって大過なく、新型コロナウイルス感染症によるさまざまな行動制限も緩和された年でありました。また、4月1日には町制施行55周年を迎え、多くのイベントが4年ぶりに、そして、おうらスポーツフェスティバルなどいくつかの新たな取り組みが始まった年でもありました。

令和6年は町にとっての新たな夜明けとなるよう、今後も職員一丸となって行政サービスを展開してまいります。

#### ―選挙を振り返り―

多くの町民の皆さまからのご支援、ご声援をいただいたことにより、第

9代邑楽町長就任となりました。これまでも町職員として職務に邁進してまいりましたが、あらためて身の引き締まる思いであり、すべての町民のために、若さを生かしたスピード感と柔軟性のある施策を展開し、町民の皆さまが誇りを持てるまちづくりに取り組んでいきます。

そして、選挙に挑んだ両陣営とも選挙戦の終了とともにノーサイド。一人でも多くの人に受け入れられるよう、これまでの町政を継承し、まちを一つにして発展させていくことが責務であると考えています。

### 第9代邑楽町長

# 橋本 光規

【Profile】はしもと みつのり

▶昭和48年9月20日生まれ。50歳。明治大学政治経済部卒業後、平成8年邑楽町役場入職。土木・都市計画業務を歴任後、令和2年に企画課長に就任▶課長就任後は公共バスの再編や行政事務のデジタル化、民間企業・団体との連携事業に取り組み、鶉古城まつりでは企画プロデュースのみならず、自らも武術演武に参加▶座右の銘は「和義(やわらぎ)」。趣味はボディビル、古流武術など。





新たなまちづくりに取り組む橋本町長に、今後の具体的な施策の方向性や座右の銘などについて話をお聞きしました。

— 具体的な施策の方向性は  
私は、選挙戦において大きく3つの柱を掲げました。

**社会インフラ整備への投資**

一つ目は産業促進、防災減災を実現するための社会インフラ整備への投資です。利根川新橋へつながる広域南北軸の道路整備により、新たな土地利用の可能性を拡大し、企業誘致、また農業を含めた産

業の成長を促します。そのことを通じて雇用・税収を増大させ、定住人口の拡大、ひいては商業の活性化、子育てや各種福祉施策の拡充という好循環につなげていきます。

**各地区拠点整備への投資**

二つ目は、高島・中野・長柄の各地区拠点整備への投資です。

高島地区においては、公共施設の集まる拠点地区を核とした都市計画法上の地区計画を新たに策定し、人口減少を食い止め、住宅や商店が建てやすくなるような土地利用の規制緩和を進めます。

中野地区においては、本中野駅をエレベータの設置などによりユニバーサルデザイン化し、新たに南口も新設した再整備を進めます。

長柄地区においては、防災拠点にもなり、すべての人にとって使いやすい総合体育施設を整備することにより、ス

ポーツで町民を笑顔にし、次の世代が生き生きと暮らせるような拠点としていきます。

**共生社会実現への投資**

三つ目は、すべての人にやさしい共生社会実現への投資です。今後も子育て・教育への投資を重点施策として位置づけ、まずは保育・幼児教育施設を再編して、より安心で質の高い子育て環境を構築していきます。

また、老朽化した福祉センターについては、建替えも視野に入れ、既存の温泉資源を活用した多世代が集える場所へと再整備していきます。

**民間人財の活用**

さらに、役場内のこれまでの考え方から脱却し、柔軟にこれらの政策を実現させるため、民間人財の活用と連携も合わせて進めていかなければなりません。

# 義和

橋本光規町長  
— 座右の銘 —

— 座右の銘「和義」とは

私は、古流武術である日本刀の真剣を用いた居合・抜刀術の稽古(いにしえにまなぶ)にも日々励んでいます。現代にあつては、実用性のない無用の長物にも思えますが、400年以上も前からの技術を脈々と受け継いできた、その魅力・本質とは何なのか。他のスポーツのように対戦相手のいる競技ではなく、超えるべきは昨日の自分のみであり、常に目標は遠くへと高まり続けます。古流武術を学ぶ人は、まさに理想の「刀」を

求め、日々刻苦奮闘するのみだということにあります。その中で、いかに争うことが生産性のない無益な行いであり、人は他者を認め、敬い、手を取り合つてこそ前へ進めるということに気づかされるのです。その境地に達した私の師範から授かった言葉こそが『和義』、言い換えれば『和を以て尊しと為す』なのです。

— これからのまちづくり

まちづくりは行政のトップたる町長がその舵取りと責任を負いますが、一人で行うものではありません。多くの町民、事業者、職員、すべての邑楽町に係わる人々と進めていかなければなりません。私自身、まだまだ若輩者であり、至らぬ点ばかりです。今後も多くの人からご指導いただきながら、町とともに成長していきたいと存じます。



町制施行55周年を記念して、令和5年5月5日に行われた鶺鴒古城祭りでは古流武術の演武を披露。



12月19日の初登庁後、役場職員を前に訓示。「町民のために職員一丸となって前に進んでいきましょう」と話しました。

他にも町のさまざまなイベントに自ら体を張って参加する橋本町長。



2023おうら祭り



文化交流セレモニー



次の世代へ  
いつまでも

持続可能なまちへ